KOYO AUSTRALIA PTY. LTD.

－光洋オーストラリア，ＡＫＬ－

１．会社概要

社　名　KOYO AUSTRALIA PTY. LTD.
所在地　シドニー近郊（本社）
支　店　ブリスベーン，メルボルン，パース
従業員　25名
沿　革　1964年８月　現地資本と合弁でシドニーにAUSTRALIAN KOYO LTD.を設立
1970年８月　光洋精工100％の法人化
1972年10月　ベアリングの一貫生産工場を建設し操業開始
1979年８月　工場を閉鎖し，販売に専念する現在の業態に切り替え
1991年１月　本社の現在地への移転を契機に，社名を現在のKOYO AUSTRALIA PTY. LTD.に変更
1998年10月　ISO9002の認証取得

２．会社の紹介

グッダイ．書けばGood Dayで，あいさつ（朝昼晩いつでも使えて便利）だとおわかりになると思いますが，初めて聞くと戸惑いますね．ここオーストラリアは1770年にキャプテン・クックが発見して以来，英国の植民地として開発されてきたこともあり，コクニーと呼ばれる英国・ロンドンの下町言葉から派生したと言われる癖のある英語には悩まされます．特にＡをＩのアイと発音するのを聞くと，本当のＩとどう識別しているのか摩訶不思議です．ネイティブスピーカーに尋ねると脈絡と雰囲気でわかるそうですが，話し言葉ならともかく，固有名詞や何らかのコードにＡやＩが含まれていると，トラブルのもとになりはしないかと余計な心配もしたくなります．

前置きが長くなりましたが，当社は上記沿革の通りＫＯＹＯの海外拠点としてはアメリカ，ドイツに次いで設立されて以来，37年を超える歴史を持っています．途中で生産工場を操業７年で閉鎖せざるを得なくなるなどの紆余曲折もありましたが，人口19百万人余り（日本の約７分の１）の極めて限られた市場ながら，オーストラリアの産業の

発展に貢献するベアリングサプライヤーの一翼を担ってきたとひそかに自負しています．特異な産業構造と地理的条件，さらには世界経済においてやや隔離された感もあり，将来的に経済・市場規模が飛躍的に発展・拡大するには課題と障害が多すぎるようですが，同国のいっそうの繁栄に寄与できるよう従業員一同，微力を尽くすべき営業活動を展開しています．

AKL

さて当社の本社所在地は，シドニー中心街から車で西に約40分のローズヒルという郊外にあります．ローズとは名ばかりで，バラなど花屋さん以外で見たことはありませんが，それよりも道路を挟んで隣と言ってよい至近距離にある競馬場で有名な所です．またこの辺りはパラマッタという，政府・公共機関・金融関係のオフィスが比較的多

い地域に隣接しており，商工業が盛んな地理的にも便利な立地条件を備えています．ちなみにパラマッタというのは，原住民であるアボリジニの言葉で「ウナギが集まる所」という意味だそうですが，当社のすぐ近くに日本の軸受会社のシドニー支店があり，また車で10分余りのところに他の日本の軸受会社関連の現地法人が本社を構え，いわば「日本のベアリング会社が集まるところ」といえるかも知れません．

2000年春（当地では９～10月は秋ではなく春）に開催されたシドニーオリンピックのメイン会場も車で20分余りの所にあり，各種のエキシビションが開催される折には気軽に行ける距離でもあります．今でもシドニー観光のルートに入っているようで，日本からの観光客を満載したバスが何台も連なってオリンピックスタジアムに入っていくのを見かけます．

３．地域の紹介

シドニーといえばオペラハウスを思い浮かべる方が多いかと思います．確かに遠目には貝を模したといわれるその独特の造形美（設計はデンマークの建築家）と海岸線との調和の妙もあっておもしろいのですが，所詮は人工構造物，オーストラリアの大自然には勝てません．

オペラハウスとハーバーブリッジ

シドニー周辺で大自然を満喫するにはやはりブルーマウンテンとなります．当社から西に向かって車で１時間足らずで行けるお奨めの「安近短」スポットです．何年か前にＮＨＫが美しい海外トレッキングコースのひとつとして，このブルーマウンテンを某女優さんに案内させていた番組をご覧になった方もあるかと思います．ユーカリの木から発散される油分が太陽光線に反射して，山全体が青くかすんで見えることから名付けられた国立公園です．標高1 000m前後の山々が連なり，変化に富んだ景観が楽しめます．

オーストラリアにしか生息していない動物を間近に見るのも楽しいものですが，最近は観光スポット化された大きい動物園や遊園地などではカンガルーはともかく，コアラの横で写真を撮るのも有料になり，抱っこするどころか触ることもできなくなりました．しかし観光ルートに入っておらず，車がなければちょっと不便で規模が小さ目の動物園の中には，季節や動物の健康状態などにもよりますが，コアラやウォンバットを撫でたり抱かせてくれるところもあります．当地に来られて少し時間の余裕があって，どうしてもという方にはお教えいたしますので，お問い合わせ下さい．

広大な国土と豊かな自然に恵まれたオーストラリアはスポーツ天国でもあります．「する」スポーツは，日本に比べればはるかに気軽に安く楽しめるゴルフとなるでしょうが，やはりせっかくの大自然の恵みを大いに享受するにはなんといってもマリンスポーツです．シドニーの北から南に至るまでの海岸線には多くのサーフィンスポットがあり，日本のようにボードを積んで何時間もかけて海岸に着いたら凪いでいたというような事はまずないようですし，たとえあったとしても車でちょっと走ればすぐ別のビーチに移れます．サーフィンはちょっとという方には年齢も運動神経もあまり関係のないダイビングがお奨めです．ライセンスがなければひとりでは潜れませんし，またちょっとしたコツも必要ですが，インストラクターと一緒に潜る「体験ダイビング」だけでも，その醍醐味とオーストラリアの海中の素晴らしさは充分に味わえ，病み付きになる人が多いというのもよくわかります．筆者もケアンズの沖で「体験ダイビング」をしましたが，世界観が変わると言っても大げさでないくらいの衝撃と感動を覚えました．

マリンビーチ周辺

「見る」スポーツも人口の割にはいろいろあって驚きますが，中でもラグビーがオーストラリア生まれの２種類を含めて３リーグもあり，いずれも人気が高くオージーを熱狂させています．日本でもファンが多い，いわゆる普通のラグビーはRugby Unionがリーグを組織していますが，ご存知の通り隣国ニュージーランドとともに世界最強国のひとつだけあって，ナショナルチームでなくともそのレベルの高さと迫力には圧倒されます．この「正統ラグビー」をスクラムやモールなどのルールを簡略化してゲームのスピードアップを図ったＮＲＬ(National Rugby League)や，バスケットボールのように手でドリブルしサッカーのようにキックでゴールを狙う「フッティ」のＡＦＬ(Australian Football League)があり，それぞれにおもしろさがありますが，独断と偏見で言わせてもらえば日本人にはＮＲＬが性に合うように思えます．前述した近隣のパラマッタにもイールズ(やはりウナギ)というＮＲＬのプロチームがあり，日本の某スポーツ用品のメーカーがメインスポンサーとなっています．選手のジャージにその企業ロゴが大きく出て親近感もあるためか，プロ野球のない物足りない週末の夜は，安くて旨いワインかビールでＮＲＬをテレビで観戦するのがもっとも経済的で安全な過ごし方です(スタジアムでは時としてフーリガンもどきが暴れるのでアルコールは禁止されている所が多い)．

“豪”に入って“豪”に従えば，老若男女を問わず誰でも無理なく経済的に何がしかの楽しみ方が見つけられる国，それがオーストラリアです．まだ来られたことのない方はぜひ一度，来られたことのある方はもう一度，と思っていただければ幸いです．

それでは　ハバ　グッダイ　Have a good day！

（光洋オーストラリア　永田陽二）